

我が生は本棚ひとつ虫時雨

プロの句

- ・春ひとり槍なげて槍に歩み寄る 登四郎
- ・六月の氷菓一盃の別れかな 草田男

アマチュアの句

- ・噴き上る水伸び伸びと新入生
- ・春の風男女の二脚並びをり
- ・学窓に声聞えて春おぼろ
- ・キャンパスに兆しあるよな五月病
- ・朝の陽に溶入るみどりプラタナス
- ・飛出せばキャンパスの空鰯雲
- ・ポコポコとラケットの音小春かな
- ・添削をいくたびなすや冬木立
- ・水温む再入学の相手して



50歳で大学に着任した。この第2の人生では「時を越えて存在するもの」に出会うことを願いつつ16年が経過した。そして168名の学生が私の記憶にすり込まれることになった。結婚式に呼ばれてスピーチした君も多い。彼らが社会の一端を支えてくれているようにも思う今日この頃である。

退職を控え部屋の書類をかたづけて自宅に持ち帰ってみると、我が人生の記録も本棚一連に納まった。